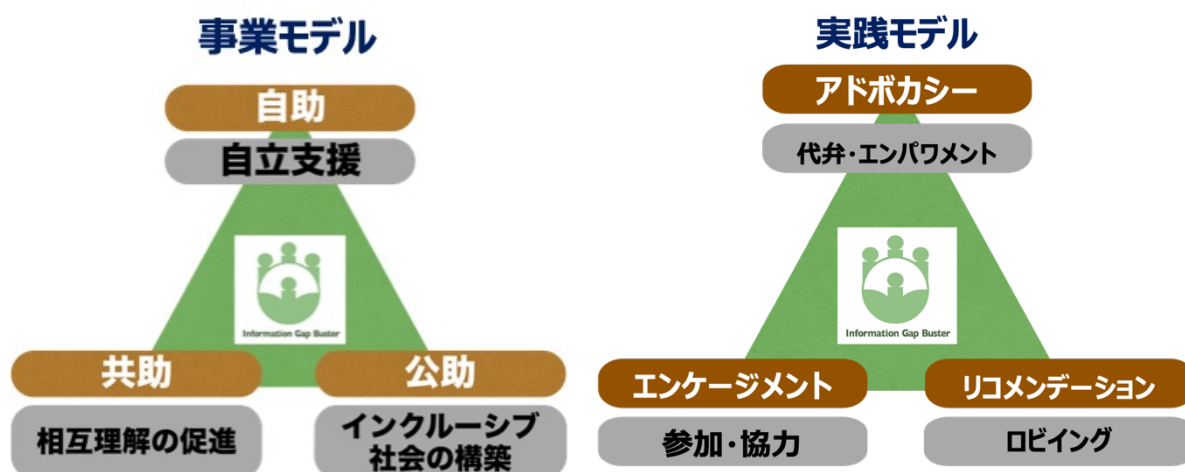


2021 年度 IGB事業計画(案)

【2021 年度事業方針】

1. IGB事業モデルに対する実践モデル

IGB事業モデル(再掲)を具体的に実践する形としては右のようになる。



2. 2021 年度の活動方針

基本的に 2020 年度の継続とする。

- 多者協働プラットフォームモデルの構築【継続】

既存の同一目的の組織の場合、人材、コストの面で限界があり、継続することが困難。

そのため、多様な目的を持つ関係団体が参加することでそれぞれのメリットを得ることができる場（多者協働プラットフォーム）の構築を長期的に推進すべく、複数の団体との協業を進めている。

- 対内外のコミュニケーション活性化【新規】

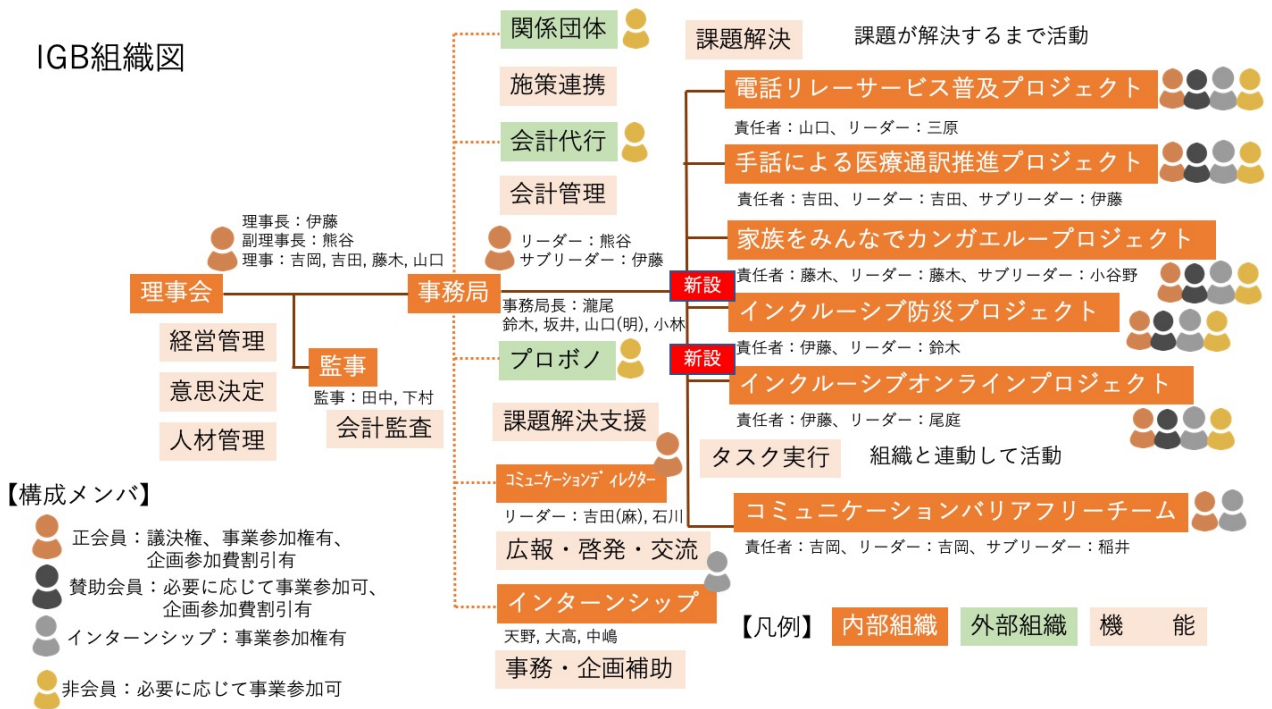
理事に依存していた対内外のコミュニケーションを理事以外の方にも分散させるべく、「コミュニケーションディレクター」を新設。団体内の交流、意見交換を促進し、ミッション・バリューを共有しつつ、団体外の関係者への情報発信を積極的に行い、団体のプレゼンスを向上させる。

- 事務局体制の強化【新規】

事務局員を 3 名→5 名に増員し、負荷分散させる。

3. 運営体制について

下記の通り、チーム・プロジェクト体制を構築し、実行する。



4. 各チーム・プロジェクトの活動方針

(1) 事務局

- ・ 政府や関連団体へ要望を出して、社会問題の解決を図る。
- ・ 総会運営、横浜市、法務局などのNPO関係の事務、会計事務、会費徴収、団体活動に必要な情報の共有、情報共有ツール運営、助成金獲得などを行う。
- ・ 市民へコミュニケーションバリア問題をWebサイト、facebookなどを活用して情報発信する。
- ・ 会計処理のための会計代行サービスとの連携、立替金の決済処理などを行う。
- ・ 県指定NPO法人化のための準備を行う。(将来的には認証NPO法人化を視野に入れる)

(2) コミュニケーションバリアフリーチーム (リーダー：吉岡)

- ・ 2021年5月 プレゼンカ&ファシリテーションの力のスキルアップセミナー
- ・ 2021年11月 The Valuable 500 参加企業とのコラボ
- ・ 2022年3月 東京女子大学との協同企画(アイデアソン) or スキルアップセミナー
- ・ 2022年3月 職場への手話通訳、要約筆記派遣に対する要望提出
- ・ その他 他団体との協同プロジェクトへの取り組み

(3) 家族をみんなでカンガエルプロジェクト (リーダー：藤木)

- ・ 2021年4月 透明マスク配布
 キコエナイ子どもときょうだい、キコエナイ親をもつ子ども応援動画公開
- ・ 2021年12月～2022年1,2月頃家族をカンガエルシンポジウム開催予定
 年間を通じて、ヤングケアラー支援に関するロビイング活動を行う

(4) 電話リレーサービス普及プロジェクト（リーダー：山口）

- ・（社会状況の変化）2021年7月1日より、いよいよ法に基づいた電話リレーサービスの公的運用が開始
- ・24時間365日対応、緊急通報対応、双方向発信対応など、これまでと大きく変わるメリットもあるが、本人認証問題など、一般財団法人電話リレーサービス、金融庁、経済産業省、消費者庁などと連携し、問題の解決を図る
- ・普及パンフレットを改訂し、印刷した3,000部を希望者へ配布予定
- ・家族をみんなでカンガエルプロジェクトと連携し、聞こえない・聞こえにくい人がいる家族への電話リレーサービスの啓発を行う
- ・聞こえない・聞こえにくい当事者への啓発活動として、各地の手話サークルや聴覚障害関連団体などでの講演も引き続き行う

(5) 手話による医療通訳推進プロジェクト（リーダー：吉田）

(1) 医療通訳シンポジウム

- ・関西学院大学と共催で実施予定
- ・IGB単独での実施はコロナ禍の状況を見ながら検討

(2) 講演会

- ・矢部愛子氏（ろう者、筑波大学助教）
- ・アメリカでの博士論文（米国での遠隔医療手話通訳に対する医者とうろう患者の評価比較）の内容を中心に予定
- ・オンデマンド形式等で検討

(3) 病院で働く手話言語通訳者の全国実態調査（病院通訳調査）

- ・学会等での発表メイン、一部でインタビュー調査等の調査研究の可能性あり
- ・2022年度の医療従事者を対象にした調査に向けた準備
- ・その他、鳥取県立厚生病院の病院取り組み記事作成等、コロナ禍の状況を見て検討

(4) 医療通訳に関する教材DVD作成

- ・医療用語手話DVDの第二弾を作成
- ・他団体と連携しながら、時間をかけて取り組んでいく予定

(5) ロビー活動等

- ・病院通訳調査の結果をもとに厚生労働省や国会議員等へ陳情

(6) インクルーシブ防災プロジェクト（リーダー：鈴木）【新設】

1995年阪神淡路大震災、2011年東日本大震災などの現状から、被災時の情報伝達～情報格差を解消する為のプロジェクト

- 目的
災害発生時、一般市民と聴障者との情報格差を解消するために、原因究明し、必要な対策を進めることを目的とする。
- 課題
 - ・防災意識が低い聴覚障害者の防災力をアップするためには
 - ・災害に関する専門用語を手話通して、日本語弱者(ろう者)に正確に伝達するためには
 - ・災害時の情報を、音声情報だけでなく「視覚的情報」の併用が一般化するためには
- 現状
自治体や町会、自治会など、「災害時、聴障者どう付き合ったらいいかわからない」と声が多く、理解が希薄であ

- 2021 年度計画
 - ・ 防災シンポジウム開催(開催地候補・東北地方) 防災講演会
 - ・ 人材開発及び育成、ネットワーク

(7) コミュニケーションディレクターチーム (リーダー：吉田麻莉)【新設】

2021 年度より、プロジェクト横断の取り組みを目指してチーム化

- 目的
 - ・ 団体内のコミュニケーションを活性化させるとともに、外部のあらゆる機関とつなぎ、プレゼンス・存在価値を向上させる。
- 対外活動例
 - ・ 憲民主党のフェスタのような外のイベントに出席
 - ・ SNSでの発信
 - ・ 国会議員の陳謝への参加 など
- 対内活動例
 - ・ インターンシップ内でのやりとりをまとめる
 - ・ IGB理念を団体内に浸透させる
 - ・ 「理事会および一部のコアメンバ」と「それ以外の会員」との橋渡し (事務局と連携)

(8) インクルーシブオンラインプロジェクト (リーダー：尾庭)【新設】

- 実現目標
 - ・ オンライン上で、話者・画面共有の資料・UDトークの字幕・手話通訳者を表示するサービスの安定的な提供・運営
- 動機
 - ・ 所属する団体や活動の中で、もしここにろう者や難聴者がいたら、どうやって情報保障するのだろうか？と思う場面がたくさんある。またそこに実際に聴覚障がい者がいるのに、これで情報保障できたつもりになっているのか？という違和感を感じることや、情報さえ届けば、参加したいろう者・難聴者もいるだろうと思う場面も多々。また、聴覚に障がいがある友人が、趣味の講座を受けようとしたときに、公的な手話通訳派遣はしてもらえずに自力で通訳者を探していて、出向いたことがあったのですが、受講するろう者・難聴者だけが苦労しなくてはいけない現状に大きな疑問がある。公的な通訳は、病院、学校、役所に限られるとよく聞かすが、いかなる人も、様々な学びをする機会や、他の人たちと交流して、その中から心を耕し、豊かな時間を得ることは、とても大切なことだと考えて本チーム発足を提案した。
- 目的
 - ・ オンラインセミナーや講演会、ワークショップなどにおいて、誰をも排除しない仕組みづくりをすること。
 - ・ 手話ができる人もできない人も一緒に学び、意見交換をし、一緒に笑える環境を当たり前にしていくこと。
- サービスの対象者
 - ・ ろう者、先天性難聴者、後天性難聴者
 - ・ 高齢者
 - ・ コンテンツを持っている人、サービスを提供したい人
 - ・ 一緒に活動する人を探している団体
 - ・ 一般向けにコンテンツやサービスを発信したいろう者や難聴者
 - ※手話を学びたい人にも、生の手話を観る絶好の機会になる可能性もある
- 現状
 - ・ ありとあらゆるものがオンライン化している状況だからこそ得られる機会が豊富にあり、また話者、通訳者、字幕提供者、受講者が、離れた地域にいても全く問題ない。しかし、オンライン上で、ろう者や難聴者が情報保障を得るための方法がまだ確立されていないため、情報を得られる機会をロスしている。

● 課題

ろう者や難聴者がオンライン上で情報保障を得るための方法がまだ確立されていない。実現するために、以下のアクションが必要である。

- ・ 運営体制の確立
- ・ サービスの普及
- ・ 手話通訳者やUDトークの方々への謝礼などの運営資金の確保
- ・ オンライン上に顔を出したくない手話通訳者への配慮（録画しないなど）

● その他

- ・ 手話通訳、字幕（UDトーク）提供者への仕事の創出と、社会的認知度をあげることによる社会的地位の向上の一助に。
- ・ リアルな場面に外向くことにはなかなか抵抗があって、新たな友達を作りにくい人にも、出会い、学びの場の提供を。
- ・ 一見、聴覚障がい者のためのサービスに見えるが、高齢者や音声が出せない環境で学びたい人、視覚情報が優位な人など、聴覚障がい者ではない人にとっても有効な場合がある。
- ・ グラレコの活用も視野にいれたい

● 実施計画（案）

- (1) 運営体制の検討・ノウハウの蓄積(7月～8月)
- (2) スタートアップ（最小限の運用開始）(9月～12月)
- (3) 本番開始（2022年1月）

● 運営スタッフの動き（案）

- (1) 派遣依頼(日時、時間、通訳種類の概要(難易度)を聞く)
- (2) 通訳レベルの検討・スケジュール調整
- (3) 資料の事前展開、講師・企画担当・通訳との打ち合わせ（必要に応じて）
- (4) 本番の円滑な通訳のサポート
- (5) 反省・次回以降の引き継ぎ

5. 2021年度の予定（企画）

2021.4	【事務局】 県指定NPO法人化のための準備を行う。（将来的には認証NPO法人化を視野に入れる）
2021.5	【コミュニケーションバリアフリーチーム】 プレゼン力&ファシリテーションの力のスキルアップセミナー
2021.6	
2021.7	【電話リレーサービス普及プロジェクト】 ・ 電話リレーサービスの公的運用開始に伴い、普及パンフレットを改訂、希望者へ配布 【インクルーシブオンラインプロジェクト】 ・ 運営体制の検討・ノウハウの蓄積
2021.8	
2021.9	【インクルーシブオンラインプロジェクト】 スタートアップ（最小限の運用開始）
2021.10	
2021.11	【コミュニケーションバリアフリーチーム】 The Valuable 500 参加企業とのコラボ
2021.12	
2022.1	【インクルーシブオンラインプロジェクト】 本番開始
2022.2	

2022.3	<p>【コミュニケーションバリアフリーチーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京女子大学との協同企画(アイデアソン) or スキルアップセミナー ・ 職場への手話通訳、要約筆記派遣に対する要望提出
常時	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民へコミュニケーションバリア問題をWebサイト、facebookなどを活用して情報発信する。 <p>【コミュニケーションディレクターチーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNSでの発信 ・ インターンシップ内でのやりとりをまとめる ・ IGB理念を団体内に浸透させる
随時	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 政府や関連団体へ要望を出して、社会問題の解決を図る。 ・ 総会運営、横浜市、法務局などのNPO関係の手続、会計事務、会費徴収、団体活動に必要な情報の共有、情報共有ツール運営、助成金獲得などを行う。 <p>【手話による医療通訳推進プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関西学院大学と共催で実施予定 ・ 2022年度の医療従事者を対象にした調査に向けた準備 ・ その他、鳥取県立厚生病院の病院取り組み記事作成等、コロナ禍の状況を見て検討 ・ 医療用語手話DVDの第二弾を作成 <p>【インクルーシブ防災プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災シンポジウム開催(開催地候補・東北地方) 防災講演会 <p>【コミュニケーションディレクターチーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 憲民主党のフェスタのような外のイベントに出席 ・ 国会議員の陳謝への参加